

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	16-042	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Effects of body mass index, tobacco smoking, alcohol drinking and solid fuel use on the risk of asthma: Individual Participant Data (IPD) meta-analysis of 175 000 individuals from 51 nationally representative surveys.</p> <p>BMI(体格指数)、喫煙、飲酒、固形燃料の使用が喘息に与える影響 : 51 ヶ国 175,000 人の個人データによるメタアナリシス</p>		
執筆者		
Patra J, Maher YI, Mishra S, Bhatia M, Alam D, Malini DS, Gupta PC, Jha P.		
掲載誌		
BMJ Open Respir Res. 2016 Apr 4;3(1):e000121. doi: 10.1136/bmjresp-2015-000121.		
キーワード		PMID
喫煙、飲酒、固形燃料、体型、喘息		27099758
要 旨		
<p>目的 : BMI、喫煙、飲酒、固形燃料の使用が個別に、あるいは複合的に喘鳴(喘息の典型的症状の一つ、wheezing symptoms; WS)や、喘息(喘息と診断を受けたこと、diagnosed asthma; DA)に及ぼす影響を調べる。</p> <p>方法 : 自己申告による WS と DA を喘息の指標として用い、51 ヶ国 175,000 人について解析した。るい瘦(BMI<18.5kg/m²)、肥満(BMI≥30 kg/m²)、喫煙、飲酒、固形燃料使用を危険因子と考え、これらと喘息との併合オッズ比を固定効果モデル・変量効果モデルの両方で推定した。</p> <p>結果 : 対象者すべてを併合すると、全ての危険因子が個別に WS、DA と有意に関連していた(女性における現在の喫煙と DA、男女両方における固形燃料と DA は例外)。女性における喫煙本数と喫煙期間はより強い量反応関係を示し、BMI はより強い Uカーブを描いた。複合リスクはおおむね男性より女性で大きく、WS への影響はるい瘦喫煙者(OR=2.73)は肥満喫煙者(OR=2.00)と同様に顕著であった(DA への影響はそれぞれ OR=2.13 と OR=1.58)。るい瘦・肥満、喫煙、飲酒の組み合わせからなる WS・DA への複合効果も同様に女性の方が男性より大きかった。るい瘦喫煙者における固形燃料使用も WS(男女ともに)および DA(女性のみ)と正の関連があった。</p> <p>結論 : BMI、喫煙、飲酒、固形燃料使用の組み合わせは喘息発症の 2~3 倍のリスクとなる。国によって喘息患者の割合が大きく異なる事実はこれら危険因子の違いにより説明できるかもしれない。</p>		